

令和7年度ひょうご安全の推進事業助成金交付決定一覧表【若者支援事業】

No.	県民局	事業名	実施団体名	実施日		実施場所		主な実施内容	参加者		
				月	日	施設名	所在地		参加対象	参加者数(人)	参加費(円)
1	中播磨	第1回学校・地域合同垂直避難訓練	県立網干高等学校 全日制課程	7	21	県立網干高等学校 学校体育館	姫路市網干区 新在家259-1	①緊急避難所として地域住民が避難。 ②生徒会が主体となって地域住民を誘導し垂直避難訓練を実施 ③地域住民が避難経路を避難場所の確認 ④生徒主体で地域住民と段ボールトイレと段ボールベッドの組み立て ⑤長期保存食を実際に作り試食。	網干高校生徒、職員、地域住民	350	無
2	神戸	震災時、「避難所兼遺体安置所」となった本校の体験談を口述筆記し、実情を次世代に伝承することで次の震災への備えとする書籍の作成	灘中学・灘高等学校 生徒会	11	2	県立網干高等学校 学校体育館	姫路市網干区 新在家259-1	『阪神淡路大震災における灘校証言集』の出版 阪神淡路大震災当時、灘高校は避難所指定ではなかったが、いち早く近隣住民に対して学校を開放し、現場の要望に対応した。 内容は、避難民(近隣住民)の受け入れ、遺体の安置、地下水の提供、トイレの提供、食料の配布、医師の常駐、災害電話の開放、自衛隊の駐屯地提供、ボランティアの受け入れ、支援物資の受け入れ等々であった。 自衛隊退去後は、鎮魂の為、宗派を超えて護摩行なども校庭で挙行了た。  震災後、避難所指定を受けた本校が果たす役割を考えた時、当時に体験した教職員が退官していく中、震災の伝承、記録が全く残っていないことを残念に思った生徒会が、当時の教職員からヒアリングを行い原稿化し出版した。 この経験を次世代に伝承し、次の震災への備えとする為、本校内においては生徒会主催のHRIにて今後長きにわたり次世代に伝承する。	在校生、学外希望者	1000	無
3	神戸	防災ふれあい喫茶	学生防災団体つぶやき	15	-17	加里屋まちづくり会館	兵庫県赤穂市 加里屋 2188-18 加里屋まちづくり会館	加里屋まちづくり会館において、地域住民13人を対象に「防災ふれあい喫茶」を開催した。講義形式ではなく茶話会形式とし、学生メンバーが受付・神鋼・記録等を担いながら、お茶やお菓子を囲んで交流できる場を設けた。話題カードを活用し、体調管理、食事、運動、人とのつながり等の日常的な話題から会話を始め、裏面で災害時の健康悪化や孤立の問題と結びつけて考えられるよう工夫した。最後に振り返り冊子を配布し、アンケートを実施した。	赤穂市および周辺地域の住民(高齢者・子育て世代等)	20	無